

子どもが健やか教室

獨協医科大学小児科 佐藤 力也

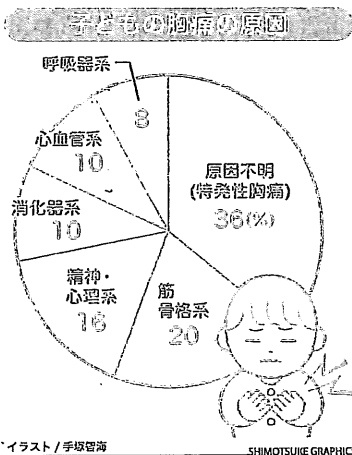
⑩

子どもの「おなかを痛めた」といって訴える頻度は少なく、重篤な病気を想起させることから、外来受診されるのが珍しくありません。大人の

場合、心筋梗塞などの命にかかわる病気が原因として多く、お知り合いに救急車で運ばれて大変だと

特発性、原因不明が最多

子どもの胸痛



イラスト/手塚智海 SHIMOTSUKI GRAPHICS

しながら、頻度が低い原因の中には、重篤な疾患があることから、われわれ医師は見逃さないように努めています。

また、緊急性の有無を判断するため、身体

の診察も丁寧に、検査が必要であれば、エックスマ線や心電図、血液検査、超音波検査なども行います。

子どもにおける胸痛の原因は、特発性と言われる原因不明のものが多いことに驚かれます。

子どもが痛みを訴える中で入院が必要となるような胸痛の大きな特徴は、息ができない、話ができない、冷や汗をかいている、動けないなど、救急車で受診を必要とするようなほかの症状があることが挙げられます。緊急性のない場合でも、

立くほど痛がる、学校に行けない、体育や部活を休むなど日常生活に支障

がある場合は、別の問題があるかもしれません。呼吸器系ではぜんそく発作などが原因の場合もありますし、病院を受診して重大な病気がないことが分かって、安心して症状がよくなることもあります。

子どもが痛みを訴える場合に大切なのは、まずは様子をよく見ることです。目で見て分かる症状がある場合は、受診を考へ、他に症状がなく元気そうなら様子を見る。緊急性がなくても、生活に差し障りがあるなら受診をお勧めします。

(獨協医科大学病院小児科講師・関根佳織) (第3土曜日掲載)